

大豆栽培技術情報

令和7年 一第1号—

令和7年7月14日発行
宮城県登米農業改良普及センター
TEL：0220-22-6127

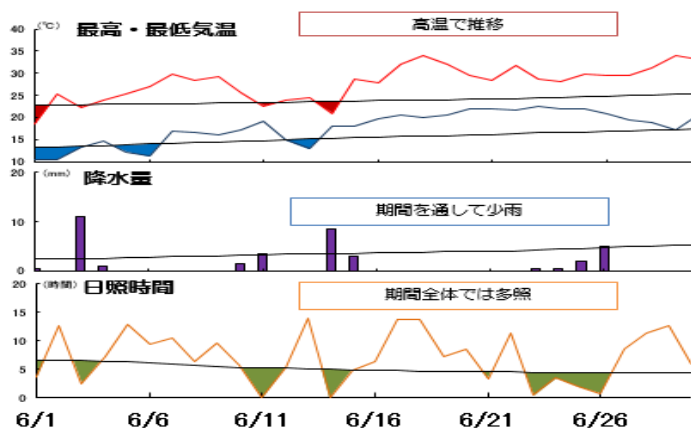
<http://www.pref.miyagi.jp/site/tmnokai>



1. 6月～7月中旬の気象（アメダス米山）

6月はひと月を通して気温が高く推移し、日照時間は平年比139%と高温多照となりました。

また、降水量は雨のない日が多く、平年比33%と少雨傾向となり、特に中旬以降は顕著な少雨となりました。

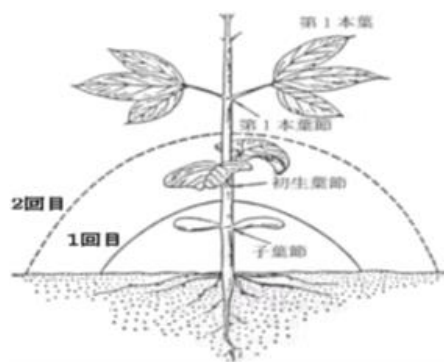


2. 管内の大豆の状況

- 大豆の播種は6月第1週頃から開始されました。6月上旬までに播種が終了したのは、管内予定面積の約2割強で、8割は6月中旬以降の播種となっています。7月第1週頃には、麦後栽培を除き播種はほぼ終了しています。
- 降雨があった6月15日以前に播種したほ場は比較的出芽が良く、大豆の揃いも良好ですが、それ以降に播種したものでは、少雨で出芽が遅れているほ場も見られます。
- 気温の高さにより、雑草が目立つほ場が増えてきています。

3. これからの栽培管理

1) 中耕・培土 … 梅雨の晴れ間をぬって計画的な作業を行いましょう！



<普通栽培>

- 1回目：本葉2～3葉期に子葉節が隠れる高さまで
- 2回目：本葉6～7葉期に初生葉が隠れる高さまで

<晩期栽培（麦後作）>

本葉5～6葉期に初生葉が隠れる高さまで

図1 中耕培土の目安

- 倒伏防止、不定根の発生による生育促進・増収、除草、排水と通気性の改善等の効果がありますので、必ず実施してください！！
- 生育量が多いとき、蔓化したときに培土の高さが足りないと倒伏を招きますので、最終培土時は確実に初生葉の上まで土を寄せてください。
- 遅い時期の培土は断根や生育遅れを招きますので、最終培土は開花10日前までに終了してください。

2) 雑草対策

- ・不十分な耕起や播種後の降雨により、土壌処理剤の効果が不十分で、雑草が発生しているほ場が見受けられます。中耕培土の他、除草剤散布による対策を検討してください。
- ・茎葉処理剤は、必ずほ場ごとに草種や雑草の大きさ、発生程度を確認し、高い効果が得られる剤を選択してください。また、大豆への薬害や雑草への効果を勘案しながら、適切な時期に散布するようにしてください。

※来年度作での対策となりますが、アサガオが問題となっているほ場では、耕起前ラウンドアップ散布→播種前トレファノサイド乳剤散布及び土壌混和→耕起後播種 の体系が効果的です。

茎葉処理剤の処理時期・効果の目安（詳細は、宮城県「普及に移す技術」第94号を参照）

	アタックショット乳剤	大豆バサグラン液剤	パワーガイザー液剤
シロザ	4葉・5cmまで	2葉・3cmまで（中）	◎
ホソアオゲイトウ	6葉・10cmまで	3葉・3cmまで（中）	◎
イヌホオズキ	10cmまで	6葉・5cmまで（中）	◎
オオイヌタデ	2葉・3cmまで	15cmまで（高）	◎（イヌタデ）
アメリカセンダングサ	—	20cmまで（高）	◎～○
オオオナモミ	4葉・10cmまで	6葉・15cmまで（中～高）	◎～○（オナモミ）
アレチウリ	5葉・つる化前まで	5葉・つる化前まで（中）	○～△
マメアサガオ	4葉・つる化始まで	3葉・つる化前まで（中）	◎～○
アメリカアサガオ	2葉まで	2葉まで（低）	◎～○
イチビ	6葉・15cmまで	6葉・15cmまで（高）	◎～○
クサネム	1葉・2cmまで	—	△
ツクサ	—	—	△～×

注1）大豆バサグラン液剤欄の（ ）は、低日照時の除草効果の安定性を示す。

注2）パワーガイザー液剤の詳細は、BASFジャパン(株)「パワーガイザー液剤技術資料」を参照。

【参考】茎葉処理剤の使用時期

農薬名	使用時期	備考
大豆バサグラン液剤	だいの2葉期～開花前（雑草の生育初期～6葉期）	
アタックショット乳剤	本葉2葉期～開花前（雑草生育期）	展着剤不要
パワーガイザー液剤	出芽直前～3葉期まで（雑草発生始期～2葉期）	展着剤不要

※大豆バサグラン液剤とアタックショット乳剤は収穫45日前まで。

※記載している農薬情報は令和7年7月1日現在のものです。使用に当たっては最新の登録状況を確認の上、周辺の農作物への飛散等に十分注意してください。

【注意】アタックショット乳剤は、メーカーの都合により当面の間製造中止となっており、今作の購入が難しくなっています。ただし、事前に購入済みで使用期限内のものは、使用してかまいません。

3) 水管理 … 天気に応じて暗渠を開閉しましょう！

- ・大豆は開花期以降、最も多くの水を必要とし、不足すると落花・落莢や百粒重の減少により減収しやすくなるので、晴天が続く過乾燥となる恐れがある場合は、暗きよの水閘を閉じて水分保持（地下かんがい）する等の対策を行ってください。
- ・畝間かん水が可能な場合は実施しましょう。ただし、特に大区画ほ場では湿害を避けるため数回に分けて行い、通水したらすぐに暗きよを開けて落水してください。
- ・大雨の際、水がほ場の外に早く流れるよう、明きよが確実に排水溝に繋がっているか、途中でごみなどが詰まっていないかを確認してください。

4) 適正な追肥 … **生育量に応じて追肥を検討しましょう！**

- ・ 湿害で葉色が薄い、生育が極端に悪く根粒菌がついていないなどのほ場では、最終培土時に緩効性肥料、または、開花期に速効性肥料を追肥します。
- ・ 基肥に窒素成分は、5kg/10a を基準とし、生育状況に応じて増減します。なお、一発肥料を使用している場合は原則として追肥は不要です。
- ・ 窒素が多いと根粒菌の働きが悪くなりますので、生育が順調で根粒菌がしっかりついているようなほ場では追肥は必要ありません。

5) 開花期以降の病虫害防除

… **病虫害の発生状況に応じて農薬を散布しましょう！**

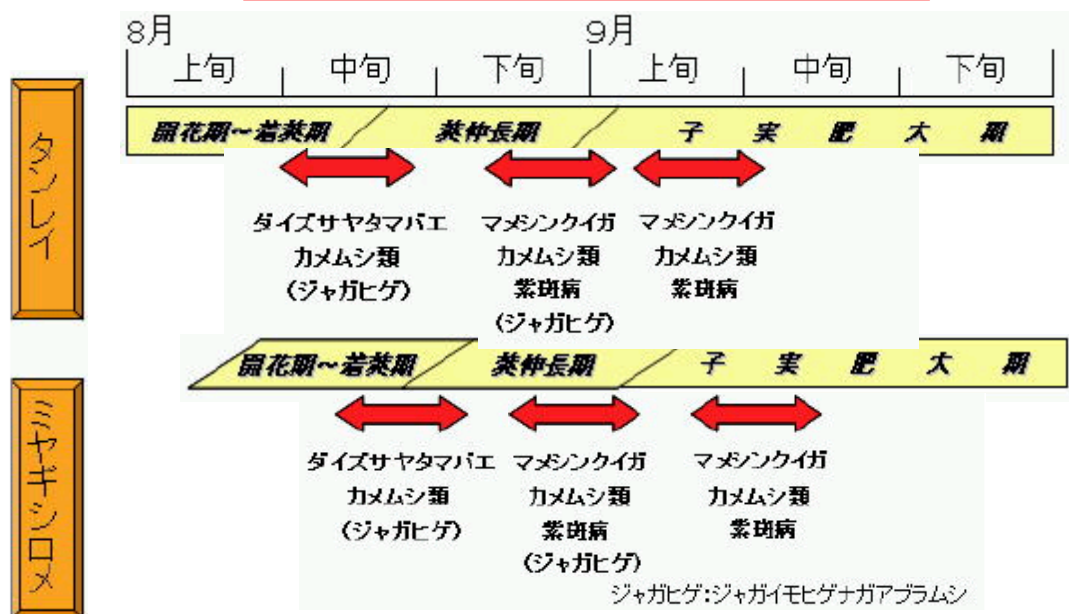
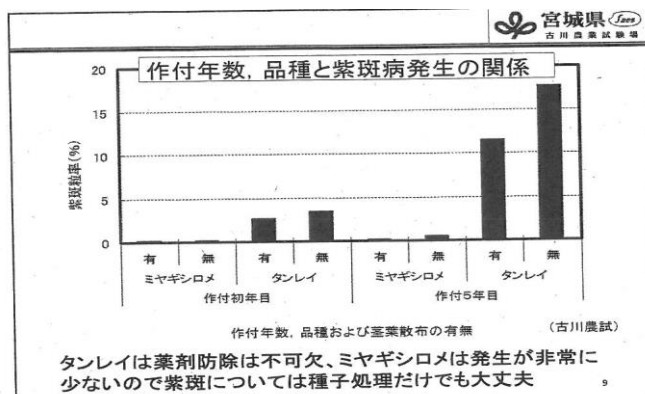
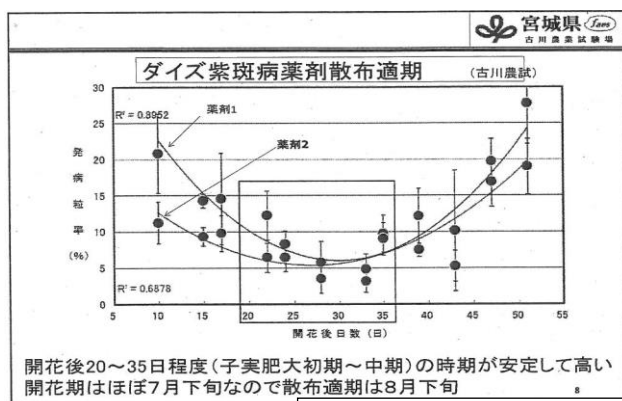


図2 大豆病虫害の防除体系（防除時期と対象病虫害）※病虫害防除所作成を一部修正

紫 斑 病

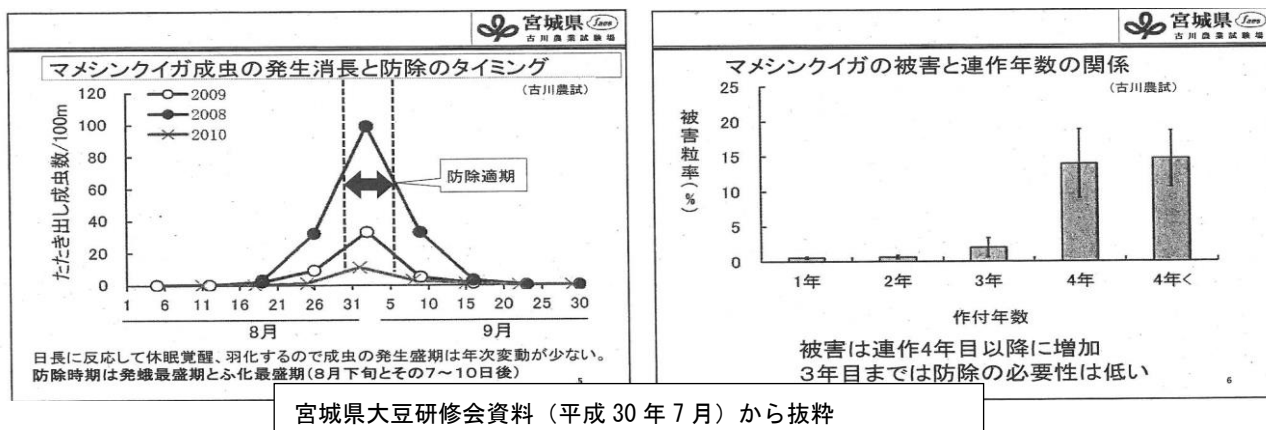


宮城県大豆研修会資料（平成30年7月）から抜粋

- ・ 紫斑病防除のタイミングは開花 20～35 日後程度です。
- ・ 紫斑病抵抗性は、タチナガハ・ミヤギシロメ・すすほのかが「強」、あやこがね・タンレイが「中」となっています。紫斑病防除は、「強」の品種については1回、「中」の品種については2回防除

- (1回目の防除後7～10日後に2回目防除) しましょう。
- ・同一薬剤の連用は耐性菌が発生しやすいので避けてください。

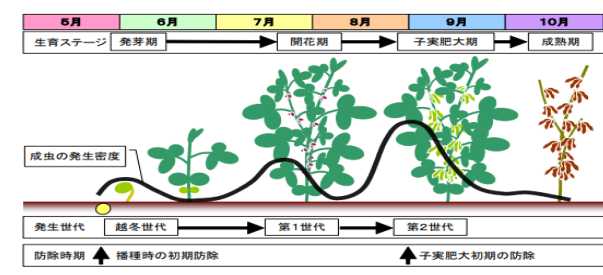
マメシクイガ



- ・連作年数の多いほ場(3年以上)では、マメシクイガ中心の防除体系を組み立てましょう。
- ・マメシクイガ防除は成虫発生盛期に 1 回目、1 回目の 7～10 日後に 2 回目の防除が基本です。
- ・マメシクイガは同一地域内での発生に年次変動が少ないので、防除は毎年同じ時期に行い、その他の病虫害防除は大豆の生育に合わせて行ってください。

フタスジヒメハムシ

- ・子実に黒色の斑点が生じる他、大豆の生育期間中に葉を食害(円孔状)します。作付 1 年目でも発生します。播種時の初期防除が有効ですが、開花期前から発生が見られた場合は、カメムシ類等と合わせて、子実肥大期の 8 月下旬～9 月上旬に防除を行います。



タバコガ類

- ・ツメクサガ、ウコンノメイガ等、突発的に発生する害虫があります。特徴は幼齢幼虫による葉の食害で、ミヤギシロメで多い傾向が見られます。通常より葉の食害が多く見られたら、JA や普及センターに御相談ください。

農薬危害防止運動実施中 (令和7年6月1日から8月31日まで)

農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため
農薬は適正に使用しましょう。